

| | |
|------|---------|
| 学域名 | 人間社会学域 |
| 学類名 | 国際学類 |
| コース名 | 国際社会コース |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針) |
|---|---|
| グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。 | グローバル化する現代社会をマクロの視点から的確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。 |

| 学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針) | コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |
|-------------------------|--|
|-------------------------|--|

| | |
|---|---|
| <p>【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】 国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割的に置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p> | <p>国際問題を理解するために必要な基礎的知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識と理解などに基づき、外国語のコミュニケーションを通して十分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自主的に関心を持つテーマを見つけて出し、それを独自に考察し研究する能力を習得する。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> |
|---|---|

コース(専攻)のカリキュラム

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | ◎ | ○ | △ | ◎ | ○ | △ |
|-------|--------------|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|
| 16001 | 国際学入門 | 国際学の概要・基礎的概念を把握する | 1 | * | | ◎ | | | | | |
| 16002 | 国際政治史A | 近代東アジア地域の国際関係の展開過程を理解する。 | 2 | * | | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | |
| 16003 | 国際政治史B | 暗記的歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性の元に進捗することを学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。 | 2 | | * | | ○ | ○ | △ | ○ | ○ |
| | 国際関係論 | | | | | | | | | | |
| 16004 | 国際関係論 | 国際政治全体についての理論を検討する。次いで、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこでの内政、国際関係を理解する。戦後の日本外交についても学ぶ。 | 2 | | * | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ○ | ○ |
| 16005 | 国際コミュニケーション論 | 主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今一度問直す。我々の価値観なども日本の持つイメージによって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみに関わらずに、国際的な基準で、公正に、公平にことごとを判断する力を身につけることを目標とする。 | 2 | | * | ◎ | ◎ | ○ | | △ | |
| 16006 | 国際経済学 | 国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際労働・資本移動などの個々の事例を理解する。 | 2 | * | | ◎ | ◎ | ○ | △ | ○ | ◎ |
| 16007 | 世界システム論 | 1. 政治・経済・文化の一体化した現実を、それぞれの側面に解きほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。 2. 世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを分析する能力を身に付ける。 | 2 | | * | ◎ | △ | ◎ | | | |
| | 国際貿易論 | | | | | | | | | | |
| 16008 | 国際貿易論 | グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学ぶ。日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に理解し、判断する力を修得する。 | 2 | * | | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ○ | ◎ |
| 16009 | 国際協力論 | 国際協力・対外援助の必要性和実態を理解する | 2 | | * | | ◎ | | | | |
| 16010 | 異文化理解 | 国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。 | 1 | * | | | | ◎ | | ◎ | ◎ |
| 16037 | 国際経済学概論 | グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようにつながっているのか、また国際経済関係を考えるためにどのような視点が必要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。 | 2 | * | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 16040 | 国際学特論 | 短期留学生用の英語による授業から、適切な科目を開放してもらう | 2 | | 未定 | ○ | | | ◎ | | △ |
| 16041 | 国際公共経済論A | 近代500年を通じた国際政治経済の趨勢変化を理解する。また、国際政治経済学の主要な理論を理解する。 | 2 | * | | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ◎ |
| 16042 | 国際公共経済論B | 国際法の基本的知識、国際経済法、現代国際法の特徴を理解する。国連について理解する。日本と他の先進国の行う対上国援助の特徴と問題点について理解する。 | 2 | | * | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ◎ |
| 16043 | 国際機構論 | 国際連合やその関連機関、IMF・世界銀行やWTO、地域の協力組織、国際レジーム等の制度的成立や国際社会における役割を学ぶ。 | 2 | * | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| 16011 | 日本文化 | 戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身に付ける | 1 | | * | | | | | | ○ |
| 16012 | 日本の思想と宗教 | 神と仏との関係を外国人に説明できるようになる | 2 | * | | | | | | | ○ |
| 16013 | 日本史概説 | 日本の近世史・近現代史に関する理解を深める | 2 | | * | | | | | | ◎ |
| 16014 | 日本経済論 | 日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日の課題を分析・説明する視角を身に付ける。 | 2 | | * | | | | | | ○ |
| 16015 | 日本の伝統芸能 | 日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力を付ける。 | 2 | * | | | | | | | ○ |
| 16016 | 日本政治・外交史 | 幕末維新期～昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する。 | 2 | * | | ○ | ○ | ○ | △ | ◎ | ○ |
| 16044 | 日本政治・外交論E | 英語による授業で、政治学及び国際関係の専門用語を紹介し、国際的な観点からの日本の政治・外交史を理解する。合わせて、英語のリーディングやリスニング能力を向上させる。 | 2 | | * | | ○ | ◎ | | | ○ |
| 16018 | 日本の言語と文化 | 日本人の言語行動を支配する社会文化的なルールについての意識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるようにする。 | 2 | * | | | | | | | △ |
| 16045 | 日本民俗文化論E | 英語による授業で日本が長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを主に明治時代以降の日米間の関係を中心に理解する。合わせて、英語のリーディング、リスニング能力を向上させる。 | 2 | * | | | | | | | ○ |
| 16046 | 日本語学概論A | 主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、文法、文字表記を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる。 | 2 | * | | | | | | | ◎ |

| | |
|------|---------|
| 学域名 | 人間社会学域 |
| 学類名 | 国際学類 |
| コース名 | 国際社会コース |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針) |
|---|---|
| グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。 | グローバル化する現代社会をマクロ的視点からの確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。 |

| 学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針) | コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |
|---|--|
| <p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割的に置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p> | <p>国際問題を理解するために必要な基礎的科目で得た知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関する学んだ知識と理解などに基づき、外国語のコミュニケーションを通して十分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自主的に関心を持つテーマを見つけ出し、それを独自に考察し研究する能力を習得する。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてのグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> |

| コース(専攻)のカリキュラム | | 学生 の 学習 目 的 | 学 年 | 前 期 | 後 期 | | | | | | |
|----------------|-----------------|--|--------|--------|--------|---|---|---|---|---|---|
| 科目 番号 | 授業 科目 名 | | | | | | | | | | |
| 16047 | 日本語学概論B | 主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、音声、語彙を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる。 | 2 | | * | | | | | | ◎ |
| 16021 | 日本語教育学基礎 | ・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。 | 2 | * | | △ | | ◎ | ○ | | ◎ |
| 16022 | 日本の文学 | 日本の文学伝統を具体的に理解する | 2 | | * | | | | | | ◎ |
| 16023 | 日本の古典文学 | 日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その受容の歴史について理解を深める | 2 | * | | | | | | | ○ |
| 16024 | 日本の近現代文学 | 語りや視点を意識して文学作品を読み解き意識付けができるようになる | 2 | * | | | | | | | ○ |
| 16038 | 日本文化体験A | 留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ | 2 | * | | | | | | | △ |
| 16039 | 日本文化体験B | 留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ | 2 | | * | | | | | | △ |
| 16048 | 日本史概説E | 英語による授業で、日本の近世から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性を理解し、また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義を理解する。合わせて、英語のリーディングやリスニング能力を向上させる。 | 2 | * | | | △ | | △ | | ◎ |
| 16025 | 翻訳理論Ⅰ | 受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。 | 2 | * | | | | ○ | | | △ |
| 16026 | 翻訳理論Ⅱ | 受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。 | 2 | | * | | | | ○ | | △ |
| 16027 | 英語パブリックスピーキングⅠA | 様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。 | 1~2 | * | | | ○ | | ◎ | | |
| 16028 | 英語パブリックスピーキングⅠB | 様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。 | 1~2 | * | | | ○ | | ◎ | | |
| 16029 | 英語パブリックスピーキングⅡA | 様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。 | 1~2 | * | | | ○ | | ◎ | | |
| 16030 | 英語パブリックスピーキングⅡB | 様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。 | 1~2 | * | | | ○ | | ◎ | | |
| 16031 | 英語表現ⅠA | 文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。 | 1~2 | * | | | | | ◎ | | |
| 16031 | 英語表現ⅠA | 1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspectives related to Japan's political history. | 1~2 | * | | ○ | ○ | ○ | | ◎ | ○ |
| 16032 | 英語表現ⅠB | 文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。 | 1~2 | * | | | | | ◎ | | |
| 16033 | 英語表現ⅡA | 文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。 | 1~2 | * | | | | | ◎ | | |
| 16034 | 英語表現ⅡB | 文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。 | 1~2 | * | | | | | ◎ | | |
| 16035 | 英語コミュニケーションⅠ | みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。 | 1~2 | * | | | △ | | ◎ | | |
| 16036 | 英語コミュニケーションⅡ | みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。 | 1~2 | * | | | △ | | ◎ | | |
| 51001 | 国際金融論A | 国際金融論の理論・制度・現状をバランスよく理解出来るようになる | 3~4 | H23 | | | ○ | △ | | △ | |
| 51002 | 国際金融論B | 基礎知識を前提に、世界各国が直面する複数の課題に視点を広げ、国際金融の現代的な問題や、歴史の中での経験、及び将来のあるべき制度について、自分自身の見識を持つことが出来る | 3~4 | H23 | | | ○ | △ | | △ | |
| 51005 | 比較経済体制論A | 比較経済学の成果を踏まえ戦後世界経済と経済システムの変容について体系的に理解する。 | 3~4 | H23 | | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ○ |
| 51006 | 比較経済体制論B | 比較経済学の成果を踏まえ戦後世界経済システムの空間的(各国・各地域)多様性を理論的に捉える。 | 3~4 | H23 | | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | ○ |
| 51017 | 比較文化論E | 英語文献により日本・東アジアの文化を学ぶ。とくに、米英の文化人類学者・社会学者によって「文化」がいかに定義され、判断され、描かれているかを。 | 3~4 | | | ◎ | ○ | | | ○ | |

| | |
|------|---------|
| 学域名 | 人間社会学域 |
| 学類名 | 国際学類 |
| コース名 | 国際社会コース |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針) |
|---|---|
| グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。 | グローバル化する現代社会をマクロ的視点からの確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身につける人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。 |

| 学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針) | コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |
|-------------------------|--|
|-------------------------|--|

| | |
|---|---|
| <p>〔学類のCP〕 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>〔コースのCP〕 国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割的に置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p> | <p>国際問題を理解するために必要な基礎的科目で得た知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識と理解などに基づき、外国語のコミュニケーションを通して十分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自立的に関心を持つテーマを見つけ出し、それを独自に考察し研究する能力を習得する。</p> <p>日本の文化・社会、歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> |
|---|---|

| コース(専攻)のカリキュラム | | | | | | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|
|----------------|--|--|--|--|--|--|

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | |
|-------|----------------|--|-----|-----|-----|--|---|---|---|---|---|
| 51008 | 多文化主義論 | ・移民や外国人、エスニック・マイノリティが置かれた状況を理解するための文献を読み、文化的多様性に対する政策の多様性を知る。 ・複数国の事例をふまえた比較考察によってグローバル化と多文化化がもたらす現象を構造的・連動的に捉えられるようになる。 ・参加者間のディスカッションを通して自分とは異なる見方・考え方に気づいた上で、多文化社会のあり方について自分なりの視点、問題意識を獲得する。 | 3~4 | | | | △ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 51018 | 多文化主義論E | ・移民や外国人、エスニック・マイノリティが置かれた状況を理解するための文献を読み、文化的多様性に対する政策の多様性を知る。 ・複数国の事例をふまえた比較考察によってグローバル化と多文化化がもたらす現象を構造的・連動的に捉えられるようになる。 ・参加者間のディスカッションを通して自分とは異なる見方・考え方に気づいた上で、多文化社会のあり方について自分なりの視点、問題意識を獲得する。以上を英語で行う。 | 3~4 | | | | △ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 51019 | 比較政治学E | 比較の観点から民主主義を理解し、英語により政治学を学ぶ | 3~4 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △ |
| 51010 | 世界地誌A | グローバル化の現状とアジア地域が抱える諸問題について基礎的な知見を得る | 2 | | | | ◎ | ○ | | | |
| 51011 | 世界地誌B | 現行の開発政策や海外援助のあり方を批判的に見直し、現場の事実に基づいた途上国理解を得る。 | 2 | | H23 | | ◎ | ○ | | | |
| 51020 | 国際社会論特論 | 外部講師による講義で、国際社会に関する専門的テーマについて学ぶ。 | 2 | | | | ○ | ◎ | | ○ | |
| 51241 | 現代中国論A | 現代中国の政治を中心に、これに関連する社会・経済・歴史・文化についての知識を増やし、中国に対する理解を深める。 | 2 | | | | ◎ | ○ | ◎ | | △ |
| 51242 | 現代中国論B | 中国現代政治史についての知識を増やし、中国に対する理解を深める。 | 2 | | | | ◎ | ○ | ◎ | | △ |
| 51243 | 現代中国論E | 現代中国についての知識に基づいた自らの見解を構築し、それを英語で表現できるようにする。 | 2 | | | | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | △ |
| 51021 | 地球環境論E | われわれが生息の場とする地球そのもの、その地球上での環境の時空変化を多面的に理解する。 | 2 | | | | ○ | ◎ | | △ | |
| 51025 | 国際法概論 | 国際法の基礎知識を習得し、その知識を基礎として国際問題に国際法を適用し結論を導く法的思考を身につける。 | 2 | | | | ◎ | ○ | | ○ | |
| | 国際政治史(東洋)E | 主に19世紀から20世紀にかけての東アジアを中心とした国際政治史を、英語によって概説する。19世紀から20世紀にかけての東アジアを中心とした国際政治史を、英語によって概説する。 | 3~4 | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | |
| 51015 | 国際社会研究演習A | 国際社会の具体的問題を研究・討議する | 3 | H23 | H23 | | | | | ◎ | |
| 51015 | 国際社会研究演習A | ・英語のリーディングやリスニングと、日米政治システムに関する専門的知識を身につけること。 ・論理的思考によって考え、議論が進められるようになること。 ・様々な意見を交換し合い、広い視野に立って、独自の世界観を形成していくこと。 | 3 | H23 | H23 | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 51016 | 国際社会研究演習B | 卒業論文の執筆に役立てる | 4 | H23 | H23 | | | | | ◎ | |
| 51016 | 国際社会研究演習B | ・英語のリーディングやリスニングと、日米政治システムに関する専門的知識を身につけること。 ・論理的思考によって考え、議論が進められるようになること。 ・様々な意見を交換し合い、広い視野に立って、独自の世界観を形成していくこと。 | 4 | H23 | H23 | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 36001 | インターンシップ | ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解できる ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務についても理解できる ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる | 3 | H23 | | | △ | △ | | ○ | ◎ |
| 36002 | 卒業論文 | 研究・分析・文章表現能力を身につける | 4 | | H23 | | | | | | ◎ |
| 別に定める | 異文化体験実習Ⅰ(海外) | 海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。 | 1~4 | H23 | H23 | | | | ◎ | | △ |
| 36151 | 異文化体験実習Ⅰ(ドイツ) | ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。 | 2~4 | H23 | H23 | | | | ◎ | | △ |
| 36152 | 異文化体験実習Ⅰ(フランス) | フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの文化に親しむ。 | 2~4 | H23 | | | △ | | | | △ |
| 36153 | 異文化体験実習Ⅰ(中国) | 中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上 | 2~4 | H23 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 36154 | 異文化体験実習Ⅰ(中国) | 中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上 | 2~4 | H23 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 36155 | 異文化体験実習Ⅰ(イギリス) | たんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。 | 1~4 | H23 | | | | | ◎ | | ○ |
| 36201 | 異文化体験実習Ⅱ(海外) | 異文化体験実習Ⅰで学んだ語学の習得 | 1~4 | H23 | | | | | ◎ | | △ |
| 36202 | 異文化体験実習Ⅱ(ドイツ) | 異文化体験実習Ⅰで学んだドイツ語の習得 | 2~4 | H23 | | | | | ◎ | | △ |

| | |
|------|---------|
| 学域名 | 人間社会学域 |
| 学類名 | 国際学類 |
| コース名 | 国際社会コース |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | |
|--|----------------|---|-----|-----|---|---|---|---|---|
| グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。 | | | | | グローバル化する現代社会をマクロ的視点からの確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材育成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。 | | | | |
| 学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針) | | | | | コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | |
| <p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割りに置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p> | | | | | <p>国際問題を理解するために必要な基礎的科目で得た知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関して学んだ知識と理解などに基づき、外国語のコミュニケーションを通して充分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自主的に関心を持つテーマを見つけ出し、それを独自に考察し研究する能力を習得する。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p> | | | | |
| コース(専攻)のカリキュラム | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | |
| 36203 | 異文化体験実習Ⅱ(フランス) | フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。 | 2~4 | H23 | | △ | | | △ |
| 36204 | 異文化体験実習Ⅱ(中国) | 中国語検定試験二級合格を目指す。 | 2~4 | H23 | | | | ○ | |
| 36205 | 異文化体験実習Ⅱ(イギリス) | ケンブリッジ語学研修を通して、さらなる英語の力を身に付けるとともに、イギリスの諸文化、歴史にじかに触れることで、英国の層の厚さを理解する。 | 1~4 | H23 | | | ○ | ○ | ○ |